

学会記事

理事会報告

日本菌学会 2020 年度第 2 回理事会 (web 会議) 議事録

日時：2020 年 6 月 18 日 (木)

出席者 (順不同, 敬称略)：

会長 田中千尋, 副会長 矢口貴志, 理事: 清水公德 (庶務), 伴さやか (庶務), 糟谷大河 (国内集会), 谷口雅仁 (国内集会), 山田明義 (日本菌学会会報編集責任者), 保坂健太郎 (国際集会), 中島千晴 (国際集会 [AMC]), 細矢剛 (企画・広報・教育・普及), 田中栄爾 (編集委員長), 本橋慶一 (会計), 監事: 大和政秀, 稲葉重樹, オブザーバー: 折原貴道 (庶務)

会議成立の確認

第 1 回に続き, 新型コロナウイルスの感染防止を図るため, Zoom を用いたウェブ会議形式で実施. 理事・監事全員が参加し, 本理事会の成立が確認された. 議題は翌日の代議員総会の資料や審議内容の確認が主題であった.

【報告事項】

1. 庶務関係 (清水・伴 理事)

総会用の資料の変更点が説明された.

2. 国内集会関係 (糟谷・谷口 理事)

資料の通り報告がなされた. 第 1 回報告内容から大幅の

変更なし。

3. 国際集会関係 (保坂 理事)

報告事項としては変更なし。

4. 企画・広報・教育・普及関係 (細矢 理事)

総会用の資料に基づき説明があった。その他、標本の輸入に関する農水省規制改定については、COVID-19の影響で、対応が遅れており、6月中旬に解除予定。

5. 編集関係 (田中栄 理事, 山田明義 理事)

会議資料に基づき説明があった。現在の出版ペースだと、年間でおよそ300ページ程度となる想定だ。

【質疑応答】

・審査がある程度進んでいる記事が複数残っている状態でElsevierとの契約終了した場合、どうなるのか。契約ページ数を満たしていなければ、違約金等、何らかの要求がなされる可能性がないか。→違約金という話にはならないはず。今年度のうちから来年度新規契約先で出版することになる審査待ち論文のストックを作っておく必要があると思う。

6. 会計関係 (本橋理事)

2019年度日本菌学会一般会計決算案に基づき、報告がなされた。収入の部のAMC開催関連前受金についての補足説明は前回理事会と同様。支出の部の雑誌等発送費については、2018年度まではニュースレター印刷費に含められていたが、実状に合わせて新たに費目を立てた。資料の修正箇所指摘と確認があった。続いて、大和監事より監査報告がなされた。

7. その他：データベース委員会 (細矢)

日本産菌類リストの作成進捗について、会議資料のとおり報告があった。

【審議事項】

1. 庶務関係

総会用の資料の前半は第1回理事会から変更なし。以下2つの追加点の審議が行われた。

(1) Mycoscienceの出版業務の委託の入札について

【質疑応答】

・前出版社変更した際は、入札が科研費の条件であった。現在の科研費の審査条件には含まれないが、できれば入札方針を進めたい。J-STAGEでの搭載・公開作業に実績があり、事前のヒアリング等で十分な確認をして移行に躊躇くことがないことを優先する。

・費用にこだわらず、品質や仕事の進めやすさを優先するのであれば、また、法人としての手続き上も、入札を経なくても問題はない。合い見積もりは取っておいた方がよい。

・時期については、科研費申請(10月)を目処とする。

⇒以上の方針が確認・合意された。

(→: 質疑応答の流れ, ⇒: 合意内容)

(2) 授賞規定の改訂について

1) 奨励賞の対象年齢の引き上げについて

【質疑応答】

・引き上げによって対象者が増えるのであれば良いことだと思う。現在の年齢設定に明確な根拠もないので、きりの良い40歳が良いと思う。→年齢をあまり上げると、若手にとってはハードルが高くなる懸念がある。概ね〇歳、もしくは学位取得後〇年、ではどうか。

・社会人になって学位を取得しキャリアを始める方もいる。定職について数年以内など、本当に必要とされる立場にある方が選考対象とする方が意義深いのではないかと。・学位取得後〇年以内という条件を加えれば、十分にキャリアを積んだ、年齢的にも若くはない研究者も対象にはなり得る。実際には推薦人が必要で、奨励賞は学会に貢献すると期待されるという要素も含めて委員会で審議されるため、その条件さえ満たせば機械的に授与されるということにはならないと考える。

⇒年齢上限は35歳のまま、これに「または、学位取得後概ね10年以内」を加えるという改定案で、総会と会則検討委員会の審議にかける。

(→: 質疑応答の流れ, ⇒: 合意内容)

2) 定款で規定されていない賞の発行者を学会長名にする件

各大会等のイベントでの表彰を学会会長名にて行うことで、学会の恩恵を会員が受けられる機会を増やしたい。菌学振興に資する表彰行為は定款に反するものではなく、その運用方針について議論された。

【質疑応答】

・年次大会やイベントが設ける賞の選考は、会長が実行委員に委託し、会長の同意を経て受賞するとしてはどうか。→理事会で討議することを規程で決めておけば、会長の独断の抑制にもなる。

・新たな規則を作ると、逆に受賞規則にないものを与えてはいけないとの解釈が生じ、定款に掲げる精神との新たな齟齬を生じる。→理事会の承認が必要という認識で一致。大会等の企画案を理事会に上げる際に、賞の人数などもあらかじめ審議事項に上げて貰えば一度の手続きで済む。

⇒学会規程で定められていない表彰を会長名で行う場合には、実行委員会の提案で予め理事会に承諾を得ておくことを新たな運用方針とする。それを議事録として記録に残す。

(→: 質疑応答の流れ, ⇒: 合意内容)

2. 国内集会関係

2021年の熊本大会の開催方針についての説明と討議がされた。

【質疑応答】

・会場が比較的狭く、密となる懸念がある。また、改めて現地の会場を探すことも難しいため、できればオンライン開催一本に絞って計画を進めたいという意見が実行委員から挙がった。→すでに他の学会等でオンライン開催が行われる一方、著作権の問題など非常に困難だ。→中止はしたくない。オンライン形式でも何らかの行事を実施してゆくことは、学会の維持には必要だ。中止の要件を考えるのは理事会の役目であるが、別の話として議論を進めたい。

・並行して準備を進めると、オンサイトでできる環境なのにオンライン開催が優先されるという事態にはならないか？→優先順はオンサイト。→職場や個人の考えによっては、オンサイトでの実施となっても参加できない会員も出てくる可能性があるため、オンラインでの参加も可能（複合型）という方策ではどうか。

⇒オンラインでの実施も検討することで合意された。考慮する事項がたくさんあるが、実行委員に時間の配分など考慮して十分に考えていただきたい。

(→：質疑応答の流れ，⇒：合意内容)

3. 国際集会関係

日台合同シンポジウムは状況をみながら引き続き協議中。2021年予定されている韓国との合同シンポジウムについては、台湾とのスケジュール調整次第でもあるが、協議は引き続き行っている。今後も検討を進めることが承認された。

4. 企画・広報・教育・普及関係

(1) ニュースレター（以下、NL）のオープンアクセス（OA）化について

【質疑応答】

・NLの著作権は著者か、学会か？→学会に譲る方針としている。

・CC-BY-NCの場合の、ライセンスの所在については？→NLの著作権適用範囲については、今後の記事が対象になる。必要に応じて、過去のものについては許諾を得て利用してもらう。営利使用を禁止する場合は、-NDを入れて対応する。

⇒原案通り承認された。

(2) 日本菌類百選における学会ロゴの使用については、原案通り承認された。

(→：質疑応答の流れ，⇒：合意内容)

5. 編集関係

日菌報で掲載される方針となった英文新産種報告は、資料、短報の2項目を認める。予め著者の責任のもと英文校閲を必要とする旨の一文を投稿規程に加える改定案が編集委員会で検討中であることが説明された。現時点で

理事会での審議はなかった。

続いて、MycoscienceのJ-Stageへの移行に際し、以下2点の確認及び審議が行われた。

(1) 論文掲載料（APC）

本提案も編集委員会で検討中の事案ではあったが、理事の意見が欲しいという編集委員長の要望で質疑応答がされた。

【質疑応答・コメント】

・APCを徴収する方針となると、会員となっている著者が支払う額が増加してしまうのは確かだ。→個人的には会員が5万円は高額、学生も一般会員と同額はいかかなものか。また、この案では非会員との差が少なすぎる。無料で投稿可能なページ数など、会員であるメリットをはっきりと享受できる条件を設定する必要があるだろう。

・会費を思いきり下げて、その分投稿料をしっかりと徴収するか、会員からの投稿料を下げて、超過料金を上げる方策もある。→実際にOA化を施行した場合にいくらかかるのかシミュレーションできていない。

・OA前提に話が進んでいるのは理解しているが、そもそもの検討事項として、1年間のみ会員限定という選択肢はどうか。もしくは、現状のままの規定を運用でいけいいのか。→J-STAGEでそれが実施可能かどうかも含め、すぐには回答できない。

・科研費ではOA化の推進が掲げられているので、積極的に使っていかなければならないのではないかと。その上で、OA化のための予算が不足するためにAPCを徴収するというか。→（科研費とは切り離して）APCを徴収する前提で価格をどうするか、という議論に絞らないと議論が進まない。

⇒OA化については既に承認されている事が確認された。APCを会員に課すかどうか、またその額については、編集委員会の議論がまとまってから理事会で討議する。

(→：質疑応答の流れ，⇒：合意内容)

(2) MycoscienceのOA化について

OA化に伴うCCライセンス付与は「CC BY-NC-ND (Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivs)」とすることが提案、承認された。

8. 会計関係

2020年度日本菌学会2020年度予算案および特別会計予算案について、個々の項目が確認・討議された。予算案の資料は代議員総会資料として掲載する。

以上.